

尾瀨国立公園

指 定 書

及び

公園計画書

平成19年 8 月 3 0 日

環 境 省

尾瀬国立公園

指 定 書

## 目 次

1	指定理由	1
2	地域の概要	1
(1)	景観の特性	1
ア	地形、地質	1
イ	植 生	1
ウ	野生動物	2
エ	人文その他の特殊景観	2
(2)	利用の現況	2
(3)	社会経済的背景	2
ア	土地所有別	2
イ	人口及び産業	2
ウ	権利制限関係	3
3	公園区域	4

## 1 指定理由

日光国立公園尾瀬地域は、福島県、栃木県、群馬県及び新潟県の県境に位置し、只見川の源流部にあたる尾瀬沼、尾瀬ヶ原の一带と、それを取りまく燧ヶ岳、至仏山などの山岳地によって構成されている。尾瀬沼は燧ヶ岳の噴火により堰き止められて出来た沼であり、周囲には大江湿原などの湿原が発達し、沼から湿原への遷移の過程を示している。約760haの規模を有する尾瀬ヶ原は、我が国を代表する山地湿原であり、湿原の中の拋水林、池塘など特徴的な景観を有している。これらは優れた原始的景観を有するとともに学術的にも極めて貴重な湿原地帯であり、ミズバショウ、ニッコウキスゲなど数多くの植物の生育地となっている。また、至仏山は蛇紋岩山地であり、オゼソウなど多くの希少植物を産することで知られている。

尾瀬地域から北部の会津駒ヶ岳及び東部の帝釈山、田代山に至る地域には、山地帯のブナ林と亜高山帯のオオシラビソ林に被われた標高2,000m内外の山々が連なり、自然性の高い森林景観を呈している。会津駒ヶ岳山頂から中門岳及び大戸沢岳にかけての稜線には多数の池塘を含む山地湿原が発達し、その周辺にはハクサンコザクラ、イワイチョウなどからなる雪田草原が広がっている。田代山の山頂部には約20haの湿原が発達しており、オオシラビソの自然林に囲まれた天上の湿原として特異な景観を呈している。

これらの地域は、景観の連続性、植生等の自然環境の同一性及び利用の一体性を有するとともに、一の国立公園たり得る規模を有している。一方、隣接する日光国立公園日光地域とは、地形、植生、景観の面及び利用状況の面から異なる性格を有する地域であるといえる。

このため、当該地域を新たに一つの国立公園として指定し、当該地域の風致景観の維持と適正な利用の推進を図るものである。

## 2 地域の概要

### (1) 景観の特性

#### ア 地形、地質

我が国を代表する典型的な山地湿原でありかつ本州最大の面積（760ha）を有する尾瀬ヶ原と、火山堰止湖である尾瀬沼（180ha）を中心に、大江湿原、アヤマ平等の成因及び規模の異なる湿原を、燧ヶ岳（2,356m）や至仏山（2,228m）等、2,000m級の山々が取り囲んでいる。また、尾瀬沼及び尾瀬ヶ原一帯を源とした只見川は、平滑の滝、三条の滝等の瀑布景観を形成している。

北部には会津駒ヶ岳（2,133m）、東部には黒岩山（2,163m）、帝釈山（2,060m）、田代山（1,971m）等、それぞれ2,000m級の山稜が連続している。

#### イ 植生

本地域のうち、日光国立公園尾瀬地域には、海拔約1,000mから2,360mまでの間にブナを中心とした山地帯、オオシラビソ、トウヒ、ダケカンバ等が生育する亜高山帯及びハイマツの生育する高山帯が見られるほか、地形や気候等の影響による湿原植生、拋水林、お花畑等が見られる。

また、その北部の会津駒ヶ岳周辺、東部の黒岩山、帝釈山、田代山周辺には、ブナを中心とする山地帯、オオシラビソを主体とする亜高山帯、山頂部の湿原植生等、日光国立公園尾瀬地域と共通性の高い植生が見られる。

本地域は、北方系／南方系、太平洋型／日本海型の接点にあたり、シダ植物以上の高等植物にあつては、国内確認種の1割強にあたる116科938種が確認されているなど、多様な植物相が形成されている。また、固有種等も多様であり、「原産植物」（尾瀬で初めて見つけれられた植物）が19科42種類、「特産種」（尾瀬でしか見られない植物）が10科19種類が生育している。

## ウ 野生動物

本地域は、北方系／南方系、太平洋型／日本海型の接点に位置することから、植物同様、多様な動物相が形成されており、ツキノワグマ、カモシカ等の大型哺乳類が見られる。

## エ 人文その他の特殊景観

檜枝岐村と片品村戸倉地区は、尾瀬を挟み会津街道（沼田～会津若松）の途中に位置し、戸倉に関所が設けられていた。この街道を利用して、昔から旅人の往還があり、江戸時代には米や酒などの物資の交易もあった。

### (2) 利用の現況

本地域の利用は、自然探勝、登山及びハイキングを目的とするものが中心である。一般の利用は5月中旬から10月下旬までのほぼ完全な三季型になっており、なかでも春のミズバショウの季節、旧盆を中心にした夏休み期間及び紅葉の季節への集中が著しい。

日光国立公園尾瀬地域の年間利用者数は、平成2～7年度まで50万人台前半で推移、平成8年度には過去最大の64万人を記録したが、その後減少が続き、近年では30万人台前半で推移している。

尾瀬ヶ原及び尾瀬沼周辺への主な入山口は6カ所あるが、このうち尾瀬ヶ原への入山口である鳩待峠からの入山者数が全入山者数の5割強、尾瀬沼への入山口である沼山峠からの入山者数が3割弱となっており、尾瀬ヶ原と尾瀬沼へのアクセスが容易な両入山口からの利用が大半を占めている。

### (3) 社会経済的背景

#### ア 土地所有別

国有地 20,312 ha、 公有地 184 ha、 民有地 16,704 ha

#### イ 人口及び産業

本地域に係る市村の人口は、福島県南会津町（うち旧館岩村）：2,219人、同県檜枝岐村：705人、栃木県日光市（うち旧栗山村）：1,933人、群馬県片品村：5,480人、新潟県魚沼市：43,554人（いずれも平成17年国勢調査値）であるが、公園区域内の定住人口はごくわずかである。

産業の基盤は農林業であるが、観光依存度が高い。

ウ 権利制限関係

(ア) 保安林

(国有林)

種 類	位 置	重複面積	指定年月日
水源かん養	福島県南会津郡南会津町地内	712 ha	昭46・3・29
	福島県南会津郡檜枝岐村地内	14,414 ha	昭37・3・15 昭46・3・29
	栃木県日光市地内	1,141 ha	昭31・12・18
	群馬県利根郡片品村地内	1,266 ha	昭37・5・22
	新潟県魚沼市地内	1,155 ha	昭36・12・13
土砂流出防備	福島県南会津郡南会津町地内	334 ha	昭37・3・15
	福島県南会津郡檜枝岐村地内	1,112 ha	昭37・3・15

(民有林)

種 類	位 置	重複面積	指定年月日
水源かん養	福島県南会津郡南会津町地内	312 ha	昭34・3・23
	福島県南会津郡檜枝岐村地内	5 ha	平13・6・21
	群馬県利根郡片品村地内	10,124 ha	明39・9・14 昭27・5・28 昭30・2・14 昭32・8・27 昭43・3・30 昭45・5・6 昭46・1・9
なだれ防止	福島県南会津郡檜枝岐村地内	6 ha	昭48・8・14
保 健 (兼種)	群馬県利根郡片品村地内	5,658 ha	昭58・11・18

(イ) 鳥獣保護区

名 称	位 置	重複面積 (うち特別保護地区)	指定年月日
田代山 (県指定)	福島県南会津郡南会津町地内	487 ha (35 ha)	昭48・11・1
奥只見 (県指定)	福島県南会津郡檜枝岐村地内	3,054 ha (0 ha)	平9・11・1
駒ヶ岳 (県指定)	福島県南会津郡檜枝岐村地内	367 ha (137 ha)	昭47・11・1
尾 瀬 (県指定)	福島県南会津郡檜枝岐村地内	6,378 ha (2,200 ha)	昭56・11・1
尾 瀬 (県指定)	群馬県利根郡片品村内	10,590 ha (0 ha)	昭56・11・14
湯之谷村奥只見湖 (県指定)	新潟県魚沼市地内	1,156 ha (322 ha)	昭48・11・1

(ウ) 史跡名勝天然記念物

名 称	位 置	指定年月日
尾 瀬 (国指定・特別天然記念物)	福島県南会津郡檜枝岐村、群馬県利根郡片品村、 新潟県北魚沼郡湯之谷村 (現魚沼市) の各地内	昭35・6・1

### 3 公園区域

尾瀬国立公園の区域を次のとおりとする。

(表1：公園区域表)

都道府県名	区 域	面 積 (ha)	
福島県	南会津郡南会津町内 国有林会津森林管理署南会津支署 1030林班の全部及び1022林班の一部 南会津郡南会津町 大字宮里及び大字湯ノ花の各一部	1,373	
	南会津郡檜枝岐村内 国有林会津森林管理署南会津支署 1042林班、1046林班、1048林班、1060林班から1063林班まで、1101林班及び1102林班の全部並びに1039林班から1041林班まで、1045林班、1047林班、1059林班、1103林班、1106林班から1108林班まで、1110- 林班及び1110- 林班の各一部 南会津郡檜枝岐村 字駒ヶ岳及び字燧ヶ岳の各一部	15,867	
		小計	17,240
栃木県	日光市内 国有林日光森林管理署 31林班、32林班、35林班及び36林班の各一部	1,147	
		小計	1,147
群馬県	利根郡片品村内 国有林利根沼田森林管理署 62林班の全部 利根郡片品村 大字戸倉の一部	17,657	
		小計	17,657
新潟県	魚沼市内 国有林中越森林管理署 276林班及び277林班の全部	1,156	
		小計	1,156
合 計			37,200